

白神山地

白神山地（しらかみさんち）は、青森県の南西部から秋田県北西部にかけて広がっている標高1,000m級の山地（山岳地帯）のことをいう。白神山地は、屋久島とならんで1993年（平成5年）12月、日本で初めてのユネスコ世界遺産（自然遺産）に登録された^[1]。そこには「人の影響をほとんど受けていない原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布」（世界遺産登録理由）している。白神山地の名称は、昭和29年発行国土地理院地勢図で使われている。また、世界遺産登録以前には弘西山地（こうせいさんち）とも呼ばれていた。

脚注

関連項目

外部リンク

概要

全体の面積は13万haでそのうち約1万7千ha (169.7km²) がユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録されている^[1]。青森県側の面積はそのうち74%の126.3km²を占め、残る43.4km²は秋田県北西部にあたる。なお、白神山地は法隆寺地域の仏教建造物、姫路城、屋久島とともに、**1993年**、日本で最初に世界遺産に登録された。

白神山地は、世界遺産登録地域の外側にも広大な山林を持ち、通常は、登録地域外も含めて呼ばれることが多い。その中でも特に林道などの整備がまったく行われていなかった中心地域が世界遺産に登録されている。

世界遺産地域は、中央部の核心地域と、周辺の緩衝地域に分かれ、これらの地域は世界遺産登録時より開発を行わず、現状のまま保護されることになっている。従って、これらの地域には遺産登録以前からあった登山道以外には道はなく、今後も恒久的に整備されない予定である。特に核心地域には道らしい道はない。また、青森県側の核心地域に入るには、事前、あるいは当日までに森林管理署長に報告をする必要がある。秋田県側の核心地区は原則的に入山禁止である。核心地区は林道すらないので、そこを踏破するには極めて高度な技術を必要とする。世界遺産に登録されてから、核心地区での遭難事故もあり死亡者も出ている。

世界遺産登録地域は、登録前後に禁猟区に指定されている。漁を行うには漁業協同組合と森林管理署長の許可が必要である。なお、漁業組合はここを通年禁漁としている。だが、自然の資源を必要なだけ利用してきたマタギによる狩猟も禁止されたことから、禁猟によりマタギ文化が消失するという批判も存在する^[2]。

自然保護のために、核心地域への立ち入りを全面的に禁止すべきかどうか、あるいはまた、かつてのマタギなどのように、そこで生活の糧を得ていた人たちまで規制する必要があるのかどうか、議論はかみあっていない^[3]。

位置は青森県西津軽郡鰺ヶ沢町、深浦町、中津軽郡西目屋村、秋田県山本郡藤里町で標高300m - 1243mの向白神岳に及ぶ山岳地帯である。（N 40°22' - 32'、E 140°2' - 12'）



白神山地の地形図。白線は世界遺産の指定範囲。

- 山地の山については白神山地の山の一覧参照。

見所

ブナの原生林



小岳より見た白神山地核心地区。呼称は秋田県側のもの。青森県側では、袴腰山（真瀬岳）、泊岳（ニッ森）、トツチャカの森（雁森岳）となっている。白神岳と向白神岳は最高地点と三角点の位置がかなりずれるため場所を明記していない。

ブナ（樺）の木は従来、椎茸栽培以外にはあまり役に立たない木であったために伐採を免れたと言えるであろう。ブナはたくさんの小さな実を付けるために、果樹と同様に寿命が短く、寿命は**200年**ほどであると言われている。自然に放置して倒れたブナは他の樹木や生物の生存に欠かせない栄養分を供給する。白神山地のブナの原生林は樹齢の若いもの、大木、老木、倒壊し朽ちたものまであらゆる世代が見られる。もちろんブナだけでなく、カツラ、ハリギリ、アサダなどの大木も見られる。

この節には、JIS X 0213:2004 で規定されている文字（ブナ『樺』は木に無）が含まれています（詳細）。



白神山地の紅葉

白神山地は、名勝地のような美しい高山植物や雄大な景色を眺められる場所はあまり多くはない。眺望がよい場所や高山植物が咲いている場所に行くためには、それなりに苦労をしなければならない。世界遺産の登録は、観光地であるからではなく、このような人為の影響をほとんど受けていない原生的地区が広大に広がっている場所が世界的に珍しいためである。

白神山地の中で特に眺望がよい場所は、白神山地に詳しい登山家の根深誠は、順番に天狗岳、小岳、ニッ森、白神岳をあげている。

白神山地は現在でも少しずつ隆起している地形で地盤が弱く、崖崩れが多発している。そのため、林道をつくっても崖崩れのために不通になってしまう場所が多い。また、冬期間は半年も雪に覆われる。そのため、大規模な林道建設を行うことが難しく、結果的に原生林が残されることになった。

登山

白神山地世界遺産登録地域には、無許可で登山が可能でしっかりとした登山道があり、核心地域付近に入ることが可能な山は白神岳、大峰岳、太夫峰、天狗岳、高倉森、櫛石山、小岳、真瀬岳、ニッ森などがある。また、遺産地区からははずれるが、白神山地の中にある登山可能な山としては藤里駒ヶ岳や田代岳、崩山などがある。

暗門滝

3つの滝からなる暗門滝（青森県中津軽郡西目屋村）は、駐車場やバス停から片道1時間（第三の滝のみならば片道30分）で行け、また、世界遺産緩衝地域内にあるため、観光地として人気がある。滝までの山道の脇には、上記のようなブナの原生林があり、観察のための道も整備されている。ただし、滝の直前で川べりを歩く仮設の遊歩道は現在通行止めとなっており一定の条件の元、渡河などを経て滝まで行くことが可能となった。あらかじめ確認が必要である。

岳岱自然観察教育林

岳岱自然観察教育林は、樹齢400年とも言われる巨大なブナをシンボルとした保護林。以前は「風景林」であったが、1992年に自然観察教育林として指定された。詳細は岳岱を参照。



暗門滝（第一の滝）

ニツ森

世界遺産緩衝地域内にある山。国道101号から真瀬林道、青秋林道を通った終点にあるニツ森登山道入口（標高約920m、駐車場、公衆トイレあり）から約5分で世界遺産地域に入れるため、観光地として人気がある。登山道を約1時間弱歩くと標高1,086mのニツ森山頂に着く。頂上からは、世界遺産登録地域が一望できる。詳細はニツ森を参照。

白神ライン

白神ラインは、白神山地北部を横断する林道である。林道で大部分が砂利道なのだが、白神山地のネームバリューから、林道にかかわらず多くの車両が通行している。

津軽峠

津軽峠から高倉森を通る登山道も優れている。この津軽峠までは弘前市からのバスが通っている。

なお、津軽峠付近には樹齢四百年ともいわれる巨木「マザーツリー」があったが、2018年9月6日に幹が折れているのが確認され台風21号による影響とみられている^[4]。

釣瓶落峠

釣瓶落峠は青森県西目屋村と秋田県藤里町の境にある峠。紅葉時には、天然秋田杉の緑との紅葉との対比が美しい。青森県道・秋田県道317号西目屋ニツ井線は秋田県側は完全に舗装されている。青森県側は釣瓶落峠から5km程度が舗装道となっており、尾太岳の東麓の谷を抜けて尾太鉦山を経て美山湖に出る。

津軽国定公園十二湖

「津軽国定公園」を参照

白神岳

JR白神岳登山口駅から白神岳山頂まで徒歩約5時間30分。標高1,231.9m、登山口のバス停および駐車場から約4時間30分。山頂では、白神山地核心地域の雄大な景色を見ることができる。山頂にはトイレと避難小屋があるが、世界遺産登録以降登山客が増えオーバーユースが懸念される。

白神の森 遊山道

JR鰯ヶ沢駅から車で30分。駐車場有り（30台）。藩政時代から田の水源を確保するための「田山」として300年以上地元の人の手により守られてきた。

およそ52haのエリアは人の手がほとんど加えられておらず、樹齢200年を超えるブナも見受けられ、白神山地核心部同様の森林景観を保っている。

全長2.8kmの遊歩道があり、外回り2.2km、内回り1.1kmのコースが選べる。コース上にはクマゲラの開けた穴や熊の爪痕のあるブナがある。外回り、内回りとも聴診器が置かれており、樹木の音を聴くことができる。

2014年4月より名称を「ミニ白神」から「白神の森 遊山道」に変更。

悠久の森 白神フェスティバル

白神山地のふもと、秋田県山本郡八森町で、2001年より行われている野外コンサート。雄大な自然を讃える詩を、毎年全国から一般公募している。NHKのみんなのうたでKOKIAが歌う『悠久の杜』という曲は、第一回白神フェスティバルでの大賞作品に曲をつけた『悠久の森〜My Home Town』である。

白神山地に生きる動物たち

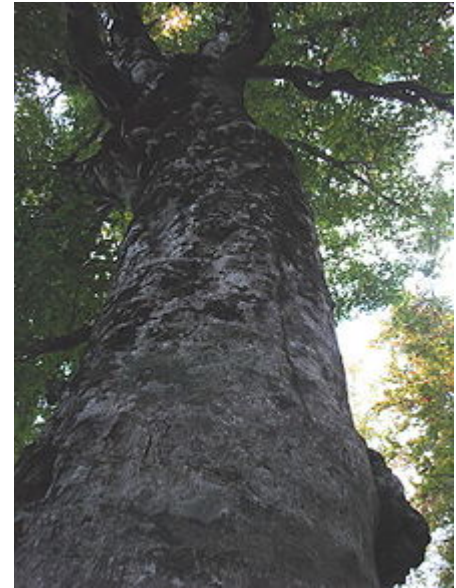
合計で4000種の生き物が棲息している。

- 鳥類

キツツキの種類の中でも一番大きく、絶滅が心配されている天然記念物のクマゲラが穴をあけ巣造りをして生活している。その他、イヌワシ、クマタカ、シノリガモの生息が確認されている。

- その他の動物

カモシカ、ヤマネ、ツキノワグマなどが生息する。



津軽峠にあった樹齢400年ブナ マザーツリー



白神岳登山 建物は山頂避難小屋

また、秋田県では、ニホンザルが群れとして存在する場所は白神山地のみである。最近は、ニホンザルが町に降りてきて農作物を荒らす問題も発生しており、白神山地ではニホンザルにエサを与えないように呼びかけている。

繁殖力が強いニホンジカが目撃されるようになっており、群として定着すれば植生や農作物へ被害を与えると懸念されている。青森・秋田両県のニホンジカは昭和初期にいったん絶滅したが、近年再び姿を見せるようになった。2015年10月、青森県西目屋村のセンサーカメラが遺産地域内では初めてニホンジカを撮影。2016年は周辺6市町村で40件、46頭が目撃された^[5]。林野庁は生息状況の把握と将来の駆除に向けた準備として、罠を設置してニホンジカ捕獲を試みている^[6]。

歴史

地質調査の結果、約8000年前には既にブナ林が形成されていたことが分かっており、約10000年前に最終氷河期が終わるとすぐにブナ林が形成されたと考えられる。その後、まったく耕作されずに山地のままであった。これはブナに使い道がなかったことが大きく作用している。

歴史上、白神山地が初めて記述に現れるのは、1783年から1829年にかけて書かれた博物学者・菅江真澄の日記『菅江真澄遊覧記』である。菅江は、津軽藩（現在の青森県の西半分）の藩医の下で5年間、薬草指南を務めた。この前後から「白上」、「白髪が岳」との表記で白神山地への記述が現れる。津軽藩を去った後は佐竹藩（現在の秋田県の大部分）に召抱えられ、こちら側からも白神山地入りした。菅江によれば、この時代、ここで伐採したブナを川に流し、出荷していた木こりがいたことが分かっている。

この時代にすでにマタギがここで猟を行っていたと考えられるが、いつ頃からいたのかについてははっきりしない。

1970年代になると、ブナは楽器の材料などとして活用されるようになり、白神山地も伐採計画が持ち上がった。

- 1978年12月、「青秋県境奥地開発林道開設促進期成同盟会」（野呂田芳成会長）結成
- 1982年8月、秋田工区（1日）、青森工区（12日）が相次いで着工。
- 1983年1月、「白神山地のブナ原生林を守る会」（秋田県）結成。
- 1985年6月、「ブナ・シンポジウム」開催（秋田市）、日本自然保護協会主催
- 1986年11月、秋田県側工事ストップ
- 1987年10月、青秋林道に反対する連絡協議会（青森県）、赤石川源流の水源涵養保安林解除に反対する異議意見書の署名呼びかけ
- 1987年11月、同協議会、異議意見書の第一次集計分を青森県農林部に提出
- 1987年11月、異議意見書（一次集計分）提出の翌日、北村正哉・青森県知事の「青秋林道建設の見直し発言」
- 1990年3月、林野庁、白神山地を森林生態系保護地域に指定。これによって、青秋林道の打ち切りが確定し、その後、保護に向けた行政側の整備が進むことになる。

青森・秋田両県での青秋林道建設反対運動は、ほぼ時を同じくして起こっている。しかしながら、両者の間で交流はほとんどなかった。そして、秋田県側の工事がストップした後、赤石川流域（鰯ヶ沢町）の住民に呼びかけ、大量の異議意見書を集めた運動（最終的には、全国で1万3千余筆）、その結果、北村・青森県知事の「青秋林道建設の見直し発言」を得た過程で活動したのは、すべて青森県側の人たちであった。なお、鰯ヶ沢町の住民の多くが異議意見書に署名した理由は、秋田県が青森県鰯ヶ沢町の赤石川源流

部に入り込んで林道工事をする（費用は秋田県側で負担）という理不尽さにあった。地元のブナ林などを隣の県に持って行ってしまわれることへの怒り、また源流部での伐採による土砂の流出などによって、赤石川さらには日本海の豊かさが失われてしまうという不安感があった^[7]。

1992年7月10日、自然環境保全法に基づく自然環境保全地域に指定された。

1993年12月9日、ユネスコ世界遺産（自然遺産）登録^[1]

2004年3月31日 白神山地全域が国指定白神山地鳥獣保護区（大規模生息地）に指定される（面積32,218ha、うち特別保護地区947ha）。これにより、この地区のマタギの伝統が失われることとなった。

2007年9月白神岳の登山道沿いで、白神山地の巡視員がブナなど115本に巻き付いていたツルアジサイやイワガラミが根元近くで切断されているのを見つけた。夏以降、刃物で切られたとみられ、直径10センチ程度で樹齢100年近いツルも被害にあった。また、ブナの幹には切断した時についたらしい傷も確認された。このため、登山口にはつるを切らないように注意を呼びかける看板が設置された。

2008年9月上旬環境省西目屋自然保護官事務所委託巡視員がブナ約20本にカタカナや数字などが刻まれているのを発見した。人の胸の高さにナタのような刃物で、「オ」「ヨ」などのカタカナ、「八八三」「七四〇」といった数字が刻まれ、直径は10 - 20センチ。なかには表皮が1センチ以上えぐられ、幹に達している傷もあった。その後、10月に林野庁などの現地調査で緩衝地域でブナなど合計60本の木に傷があるのが発見された。被害木は迷いそうな場所で多く、何らかのルートを示そうとした可能性が高いと推測される。

2008年10月13日には林野庁東北森林管理局が青森県側の遺産地域内で、枝などが切断された樹木5本を発見したと発表した。

2010年10月26日、藤里町の岳岱自然観察教育林の「四百年ブナ」の幹と一体化して自生してきたツル1件アジサイのツル2本が、刃物で切断されていたことが分かった。樹齢400年以上の「四百年ブナ」は「白神のシンボル」とも呼ばれ、白神山地の秋田県側の象徴的存在である。一帯を監視する東北森林管理局藤里森林センターは「人工林のツル切りと同様、ツルを切って『四百年ブナ』を楽にしようとしたのかもしれないが、観察林の意義を理解していない重大なマナー違反。監視を強めたい」としている。

2013年 白神山地世界遺産登録20周年 各種イベントが企画された。^[1]
(<http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/nature/shirakami20.html>)

2013年 8月 集中豪雨のため、青森県道・秋田県道317号西目屋二ツ井線が土砂崩れのため通行止めになる。激しい豪雨のため、道路はずたずたとなり通行できるまで数年間の工事が必要とされている。^[2]
(http://www.akitafan.com/news/detail.html?news_id=289)

2014年 7月 白神山地周辺で目撃情報があるニホンジカの生態や分布状況を把握し、食害防止につなげるため、林野庁は27日、秋田県側の白神山地の世界遺産地域などに監視カメラの設置を始めた。環境省も協力し、今年度中に秋田、青森県内に計64台を設置する。^[3]
(<http://www.yomiuri.co.jp/local/akita/news/20140527-OYTNT50236.html>)

2015年12月 環境省や県などでつくる「白神山地世界遺産地域連絡会議」は8日、白神山地の世界自然遺産地域内の西目屋村で10月13日にニホンジカを確認した、と発表した。自然遺産地域内でニホンジカの姿が確認されるのは初めてだ。同会議によると同13日午後1時20分頃、遺産地域内の「暗門の滝」上流付近で、自動撮影装置が歩いている雄のニホンジカを撮影した。これまで遺産地域周辺での撮影はあったが地

域内での確認は初めてという。また遺産地域周辺の鰯ヶ沢町で今月3日、町職員が田んぼにいるニホンジカを撮影したことも発表した。 [4] (<http://www.yomiuri.co.jp/local/aomori/news/20151208-OYTNT50380.html>)

バイオビジネス



この節は更新が必要とされています。

この節には古い情報が掲載されています。編集の際に新しい情報を記事に反映 (<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=%E7%99%BD%E7%A5%9E%E5%B1%B1%E5%9C%B0&action=edit>) させてください。反映後、このタグは除去してください。（2011年4月）

1997年、白神山地の秋田県側核心地区から新しい酵母菌「**白神こだま酵母**」が発見される。この酵母菌は耐冷性に優れ（パン生地を長期冷凍保存しても菌が生きている。したがってパン生地をより長期間冷凍保存できる）、発酵力が極めて強い酵母である。この他、天然甘味料のトレハロースを大量に作ることに
よる独特の甘みや、焼いた時の香りの良さなど各種の優れた性質を持っていて、現在、パン製造に幅広く活用されつつある。

白神山地は寒冷な気候で、ほとんど人が入り込まなかったため、独自の生態系を保ち、このような菌が生存競争を勝ち抜き生きてきたと思われる。白神山地からさらなる細菌を発見しようとする試みは続いていて、「白神こだま酵母」以外にも、低温に強く雑菌をなくす乳酸菌「**作々楽（ささら）**」など製品化にこぎつけた細菌も出てきている。

2010年4月から、化粧品メーカーのアルビオンが白神山地の植物を活用した美容成分の研究開発を行う拠点を藤里町に設置するとの計画がある^{[8][9]}。

登録基準

この世界遺産は世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたと見なされ、登録がなされた（以下の基準は世界遺産センター公表の登録基準 (<https://whc.unesco.org/en/criteria>) からの翻訳、引用である）。

- (9) 陸上、淡水、沿岸および海洋生態系と動植物群集の進化と発達において進行しつつある重要な生態学的、生物学的プロセスを示す顕著な見本であるもの。

地形的特徴

白神山地は、東北日本内弧の隆起帯に位置し、現在でも活発に隆起している。この地域の基盤は、白亜紀の花崗岩や新第三紀の堆積岩、貫入岩類である。この堆積岩のうち泥岩や頁岩が分布しているところで、斜面崩壊や地すべりが多発している。

脚注

- ↑ ^{*a b c d*}『地方自治年鑑 1994年版』第一法規出版、1994年11月。ISBN 978-4474004337
- ↑ 2006年7月3日 毎日新聞環境面毎日新聞まいまいクラブ (https://my-mai.mainichi.co.jp/mymai/modules/manafuji21/details.php?blog_id=1)
- ↑ 『新・白神山地 - 森は蘇るか』佐藤昌明（緑風出版）2006年、p.187-235 ISBN 4-8461-0611-X

4. “白神山地「マザーツリー」折れる 台風の影響” (<https://www.asahi.com/articles/ASL9751HRL97UBNB009.html>). 朝日新聞. (2018年9月8日) 2018年10月16日閲覧。
5. “(センサーeyes) 白神山地にシカの脅威 増える目撃例、食害の恐れ” (<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO11467520Z00C17A1CC1000/>). 日本経済新聞. (2017年1月9日) 2017年1月14日閲覧。
6. “シカ食害防止へ 白神山地にわな 林野庁が設置” (http://www.nikkei.com/article/DGXLASDG25HC1_W7A420C1CR0000/). 日本経済新聞夕刊. (2017年4月26日) 2017年4月27日閲覧。
7. 『森を考える - 白神ブナ原生林からの報告』 根深誠編著 (立風書房) 1992年、ISBN 4-651-70054-3
8. 秋田県公式サイト (<http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1260506125938&SiteID=0>)
9. 北羽新報 (<http://www.hokuu.co.jp/2009.kiji11/2009.11gatu26kara30.html>)

関連項目

- 日本の秘境100選
- 白神こだま酵母
- 青森県の観光地
- 秋田県の観光地
- カルパティア山脈のブナ原生林
- 白神市

外部リンク

- 環境省 日本の世界自然遺産：白神山地 (<http://www.env.go.jp/nature/isan/worldheritage/japanese/shirakami.html>)
- 白神山地 (青森県自然保護課によるページ) (<http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/nature/shirakami.html>)
- 世界自然遺産 白神山地 (aptinet) (http://www.aptinet.jp/ap_shirakami.html) (青森県庁観光交流推進課)
- 悠久の森白神フェスタ (<http://www43.tok2.com/home/shirataki/>) (平成13年第一回～平成18年第六回まで開催)
- 環白神エコツーリズム推進協議会ブログ (<http://blog.eco-shirakami.net/>)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=白神山地&oldid=72156502>」から取得

最終更新 2019年3月27日 (水) 16:37（日時は**個人設定**で**未設定**ならば**UTC**）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。